

千葉市内野第1遺跡出土の石棒・石剣

田 中 英 世

はじめに

内野第1遺跡は、平成8年に調査終了し、報告書も刊行された。石棒・石剣の整理終了に伴い、これを公表し検討を加える。なお、報告済は再録を避け、次のように記す（報告 1-1=報告書第2分冊第1図1の遺物）。また、調査時の遺構NOを併記する（A-住居 C-土壌）。

1. 内野第1遺跡における石棒・石剣の出土状況

内野第1遺跡出土の石棒・石剣は267点（第1表）で、内25点が報告書に掲載されている。

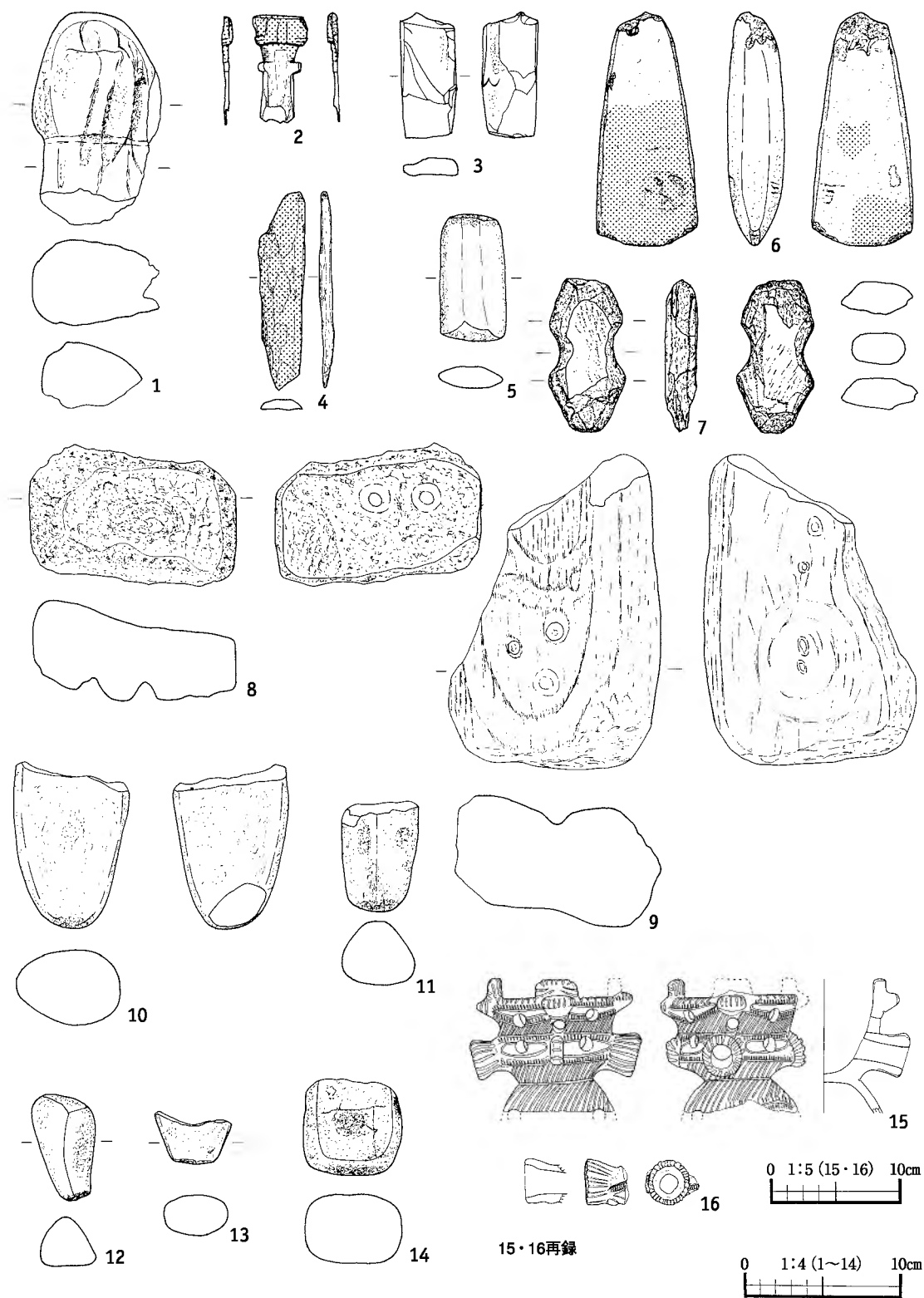
J-16（第2・3図・A-125）：方形を呈する安行2式期の住居で、黒色土中の床面に、全面焼土の堆積が認められた。床面から有頭石棒1点（1）・石剣の破片（2～4）・砥石1点（5）・大型磨製石斧1点（6）・石皿2点（8・9）・敲石4点（10～14）・磨石1点（14）・打製石器1点（7）の他に、異形台付土器1点（15）・同注口部1点（16）・耳飾1点が出土している。石剣は同一個体で、被熱・赤化し、20点余の細片が縦に剥離している。6の刃部と7も高熱により赤化している。7は、岡本孝之氏により「白河型石斧矢野下型」と呼称され、独鈷石の範疇に捉えられ、井野長割遺跡や寺野東遺跡でも出土している。

J-17・18（第4図・A-177・184）：J-17は方形を呈する加曽利B式期の住居で、砂質土上の床面壁際に焼土の堆積が認められ、多量の土器の他に土偶3点と、石剣2点（報告 284-7・285-25）が出土している。J-18はJ-17の北側に重複した加曽利B式期の住居で、セクションベルト除去時に焼土と壁が確認されたが、南側のプランは不明である。J-17の北側の焼土が炉に該当する可能性がある。石剣1点（報告 284-6）と凹石転用の石棒1点（報告 284-5）が出土し、山形土偶の最終段階（報告 300-149）と木菟土偶の初期段階（報告 293-34）が南側から出土している。3点の石剣は、完形の1点（報告 285-7）と同一形態を有する。

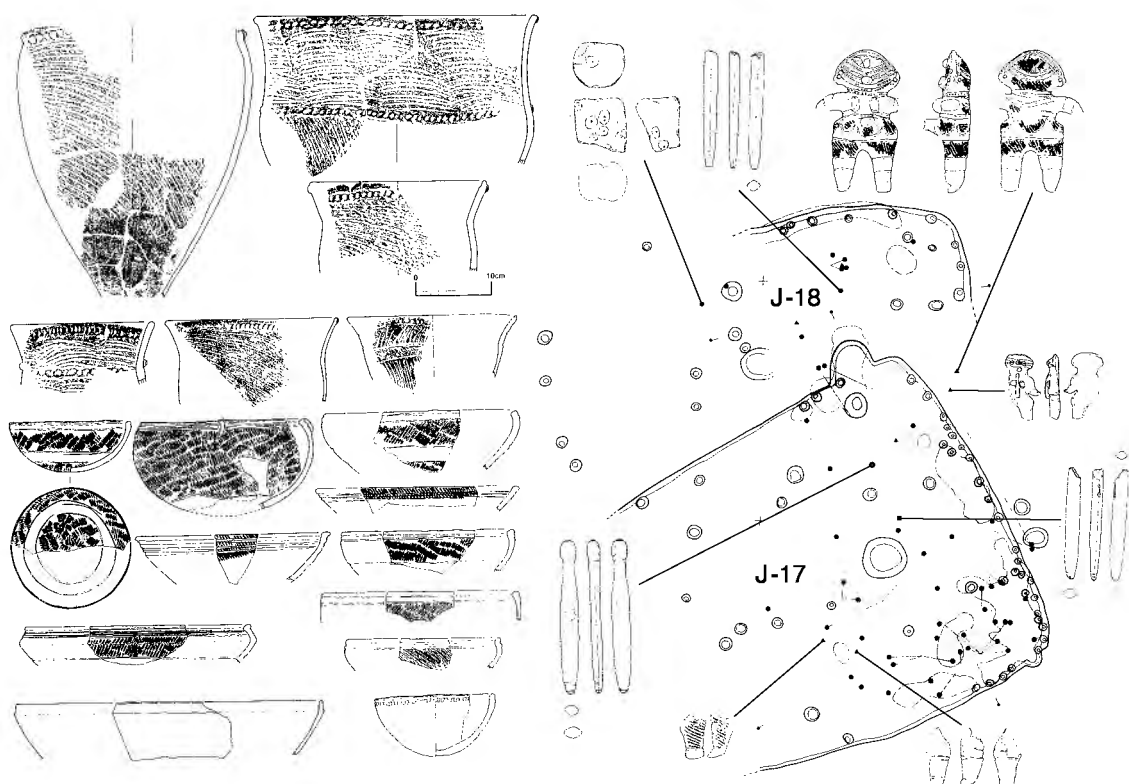
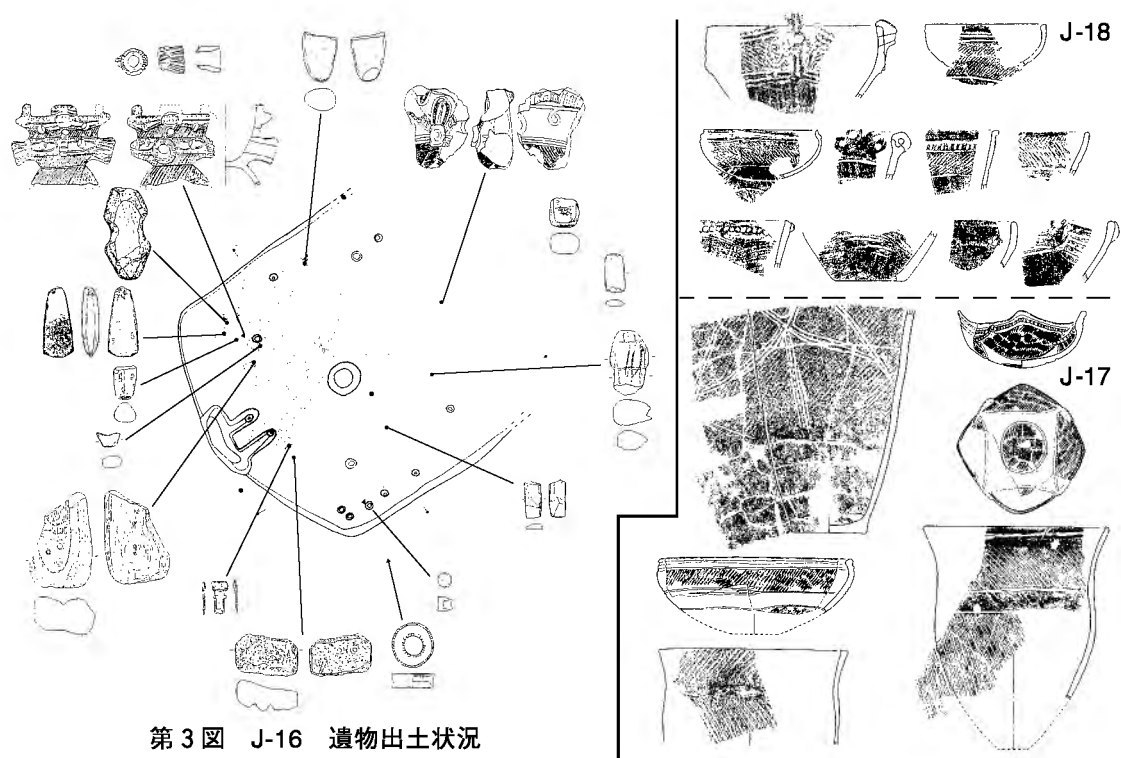
J-20・21（第5図・A-383～385）：重複する住居で、J-20は炉の数から4軒以上の住居が想定される。覆土の黄褐色砂質土下に、直径10mの円形焼土プランが検出され、晩期の遺物が出土した。これに対応するのが炉8と思われる。更に、炉9と炉10に対応する円形と方形の住居が東側に、炉7に対応する円形の住居が西側に想定される。炉10の脇から9号人骨が、炉7の下から山形土偶（報告 294-52）が出土した。J-21は南側の方形プランを呈する曾谷式期～安行1式期の火災住居で、炉1が対応する。石棒・石剣は、J-20から4点（1～4）、J-21から4点（6～7）出土している。7の石棒は21V-7cの2点とJ-21の小片1点が5m離れて接合したもので、21V-8d（第21図15）と同個体と思われる。被熱し先端部を打ち欠いた痕跡がある。

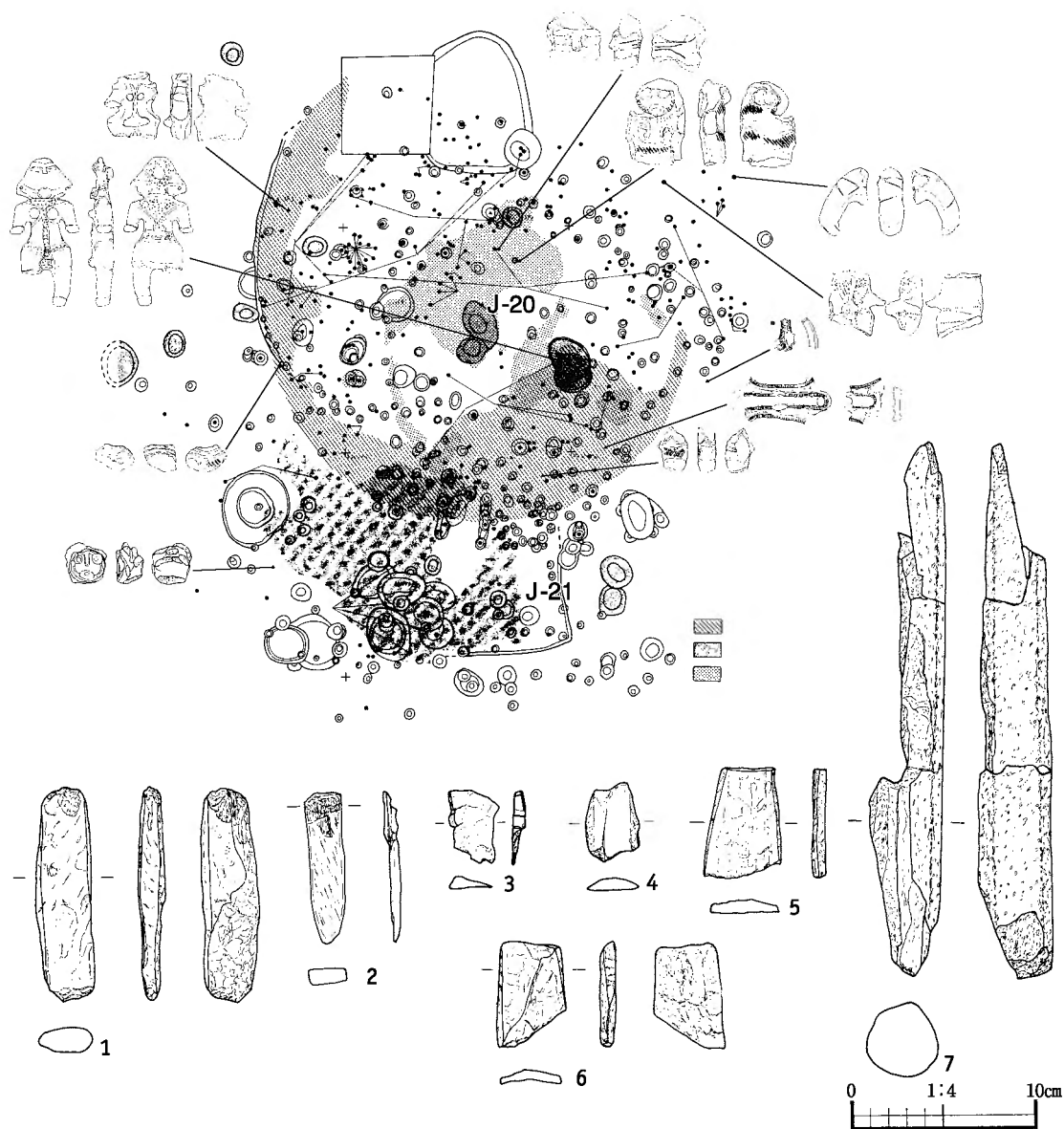


第1図 内野第1遺跡遺構配置図



第2図 J-16 (1 ~ 16) 出土遺物





第5図 J-20 (1～6)・J-21 (7) 出土遺物と遺物出土状況

J-45 (第6図・A-146)：曾谷式期の亀甲型の住居で、入口北側から大型石棒が1点倒れた状態で出土した。木菟土偶の初期段階のもの(報告 304-228・293-29)も出土している。

J-55 (第7図・A-541)：方形を呈する曾谷式期～安行1式期の住居。重複する土壌内から10号～12号人骨が出土。石棒は炉の東側から頭を南に向け倒れて出土した。大型で、側面の一部に平坦面があり、下断面に煤による黒色化が認められ、樹立していた可能性がある。

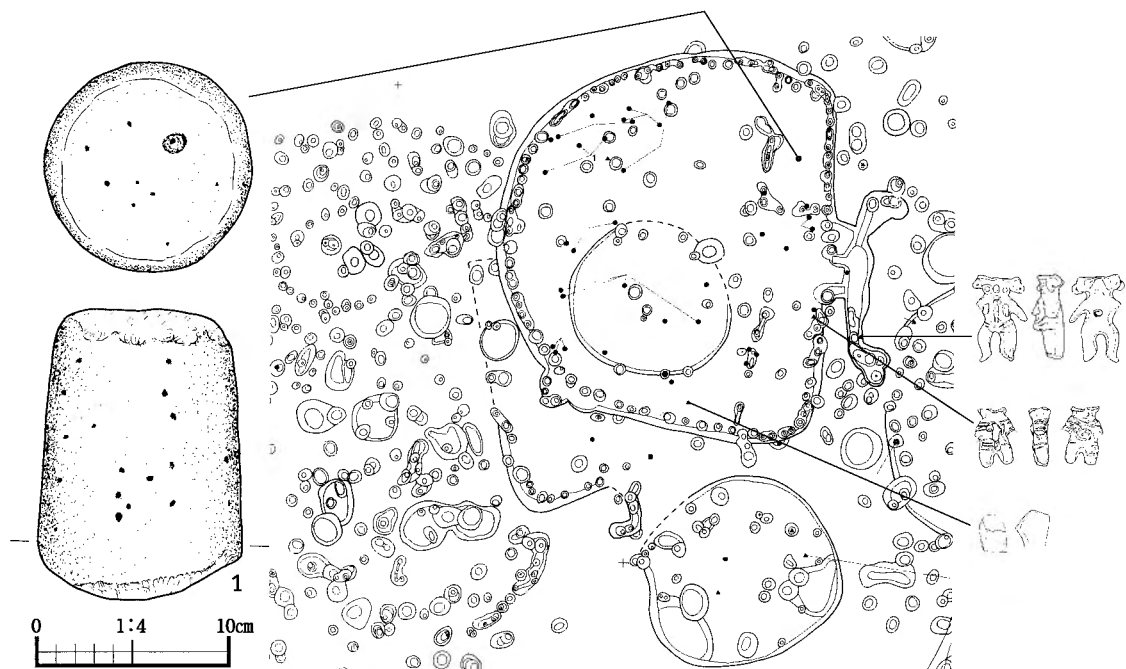
J-59・60 (第7・8図・A-523・529・535)：調査区の最も東側の川寄りに位置し、円形を呈

する加曽利B式期の住居（J-60）と、方形を呈する安行2式期の住居（J-59）が重複している。黒色土中の床面全面に焼土の堆積が認められた。安行2式期のJ-59からは10点の石棒・石剣（1～10）と耳飾1点・異形台付土器の口縁部1点が出土している。加曽利B式期のJ-60からは、破片が6点（11～17）と敲石に転用の1点（18）が、山形土偶1点・垂飾1点・骨針1点・鹿角製骨角器1点と共に出土している。14・15は砥石に転用している。

J-74（第9図・A-055）：調査区の西側に位置し、方形を呈する安行2式期の住居。床面はローム層中に構築されており、焼土等の堆積は認められなかった。耳飾16点・土偶12点が出土しているが、土偶の大半は山形土偶である。石棒は直径14cmのもの（1・2）、8cmのもの（3～5）、5cm（6）の3種類が出土している。1・2は同一個体で9点の破片が接合しており、1が先端部、2は煤による黒色化がみられる。3～5も同一個体で、3が頭部で、節状剥離状に分離している。両者は当初台石として捉えていたものである。この他に、石錘1点（7）・石鏃3点・砥石3点（8～10）が出土しており、3～5は緑泥変岩製である。

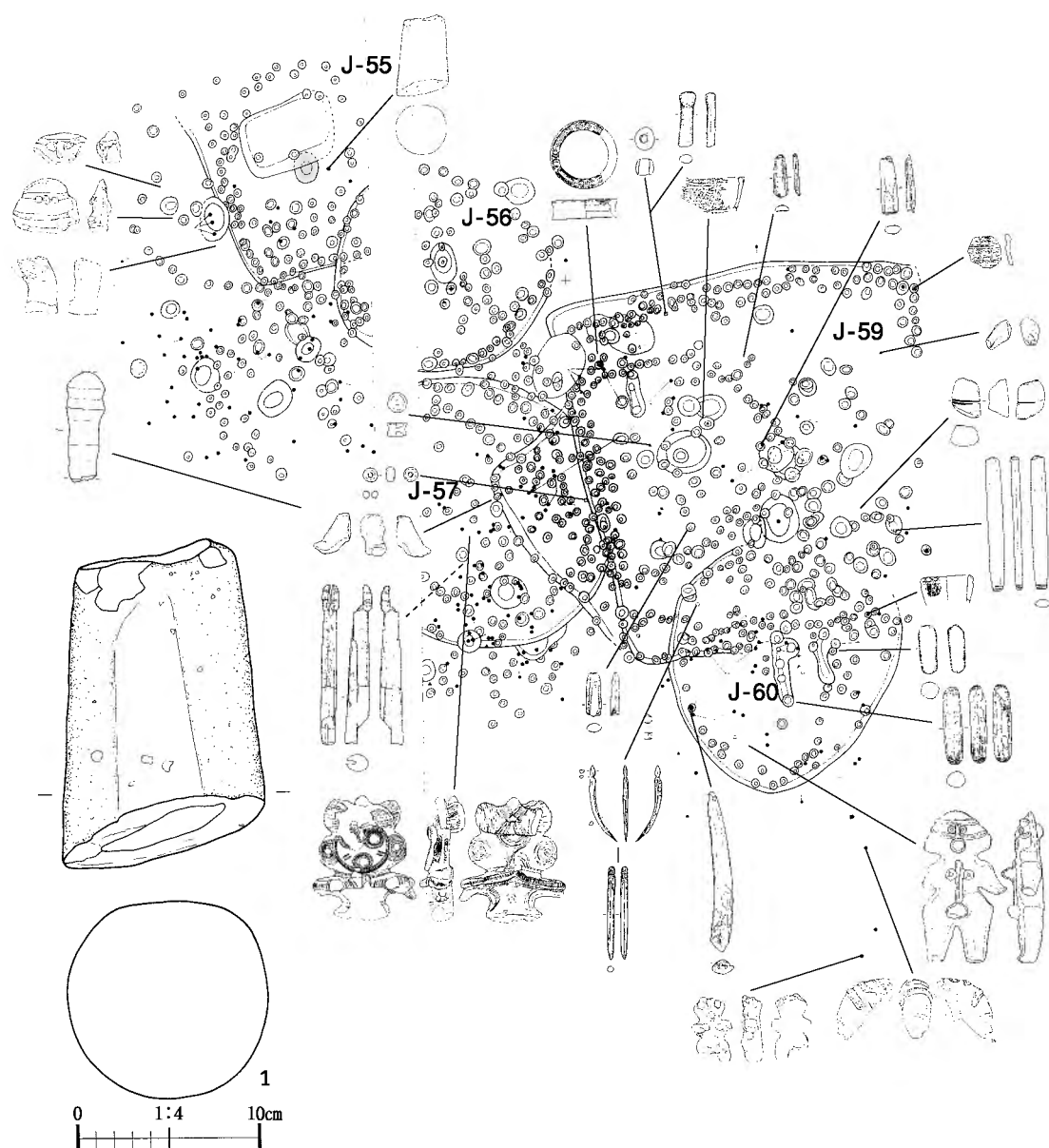
J-76（第10図・A-482）：調査区の西側に位置する方形の安行2式期の住居。床面はローム層。覆土下層から床面上に焼獣骨や鹿角を多く含む焼土が堆積。焼土中からは、異形台付土器6点・耳飾15点・土偶6点・舟形土器2点が出土し、石棒状のミニチュアが1点出土している。D-251が覆土内に硬化面を持ち、石剣の破片2点と耳飾1点を伴っている。

J-100（第11図・A-635）：7本のピットが直径12mの円形に配置された掘立柱建物跡。中に

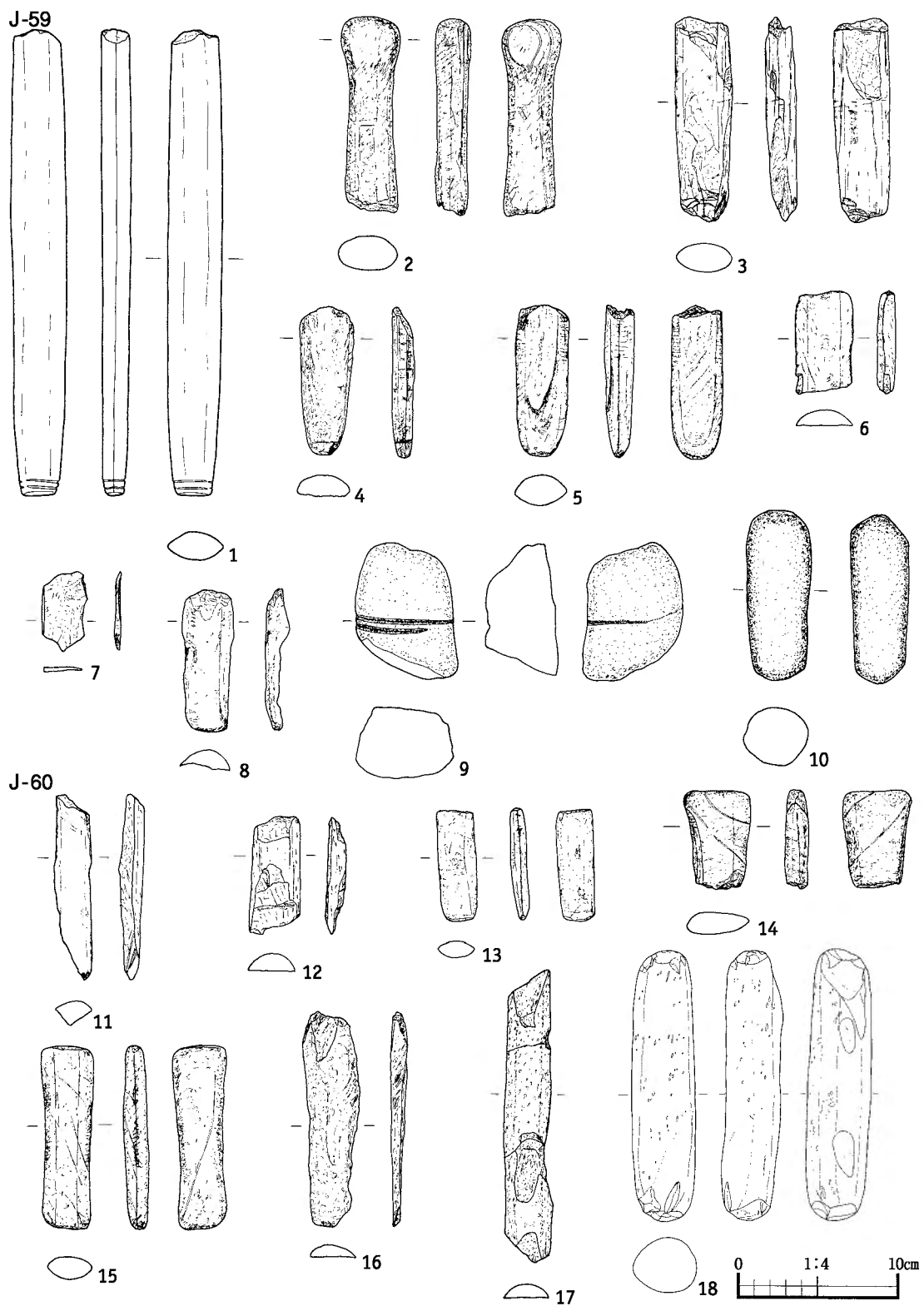


第6図 J-45遺物出土状況

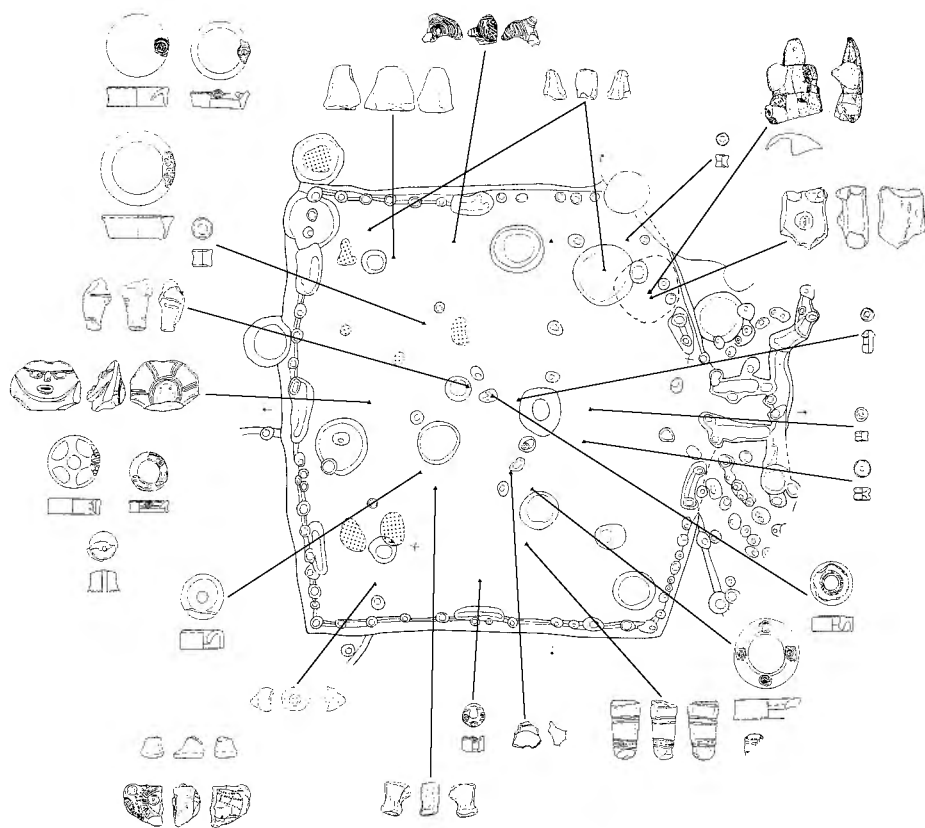
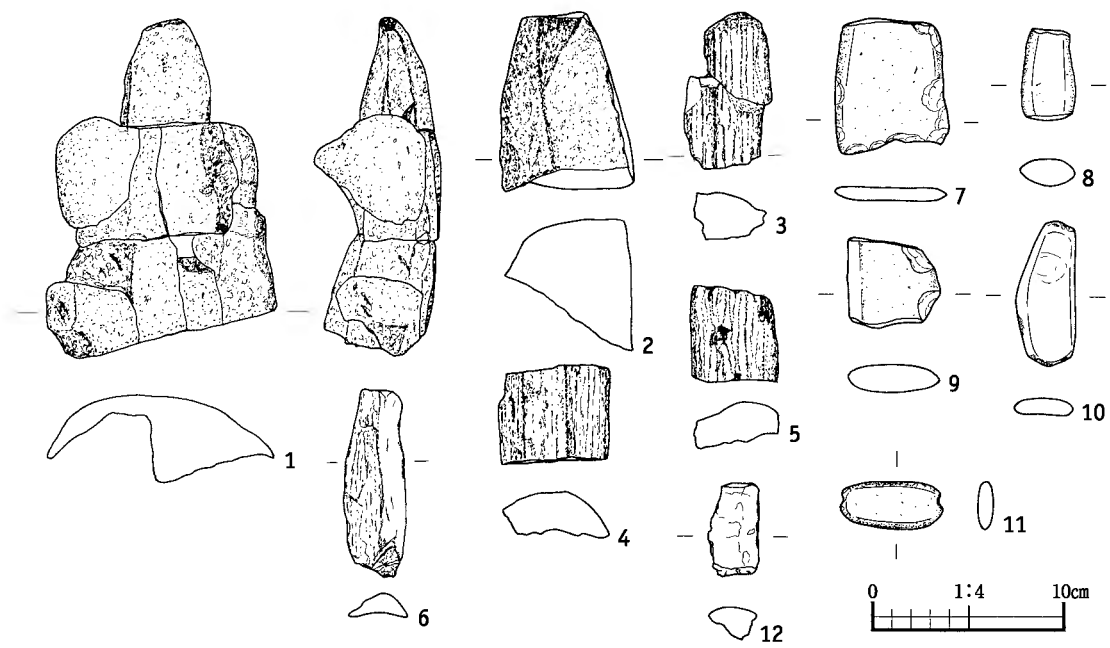
も数本のピットと2ヶ所の焼土が存在する。覆土には明確な柱痕が、底面には当たりが検出された。同地点は現道で、内側の方形遺構が伴うものかは不明である。このうちP-7から石棒1点（報告 287-23）と異形台付土器が、中央から石剣1点（3）が出土している。有頭の石棒はX字状文を施すもので、群馬県矢瀬遺跡に例がある。P-2～4から安行3b式土器が出土している。廃棄時の流れ込みで、時期的にはJ-98・J-102と関係すると思われる。市原市西広貝



第7図 J-59・J-60遺物出土状況



第8図 J-59 (1～10)・J-60 (11～18) 出土遺物

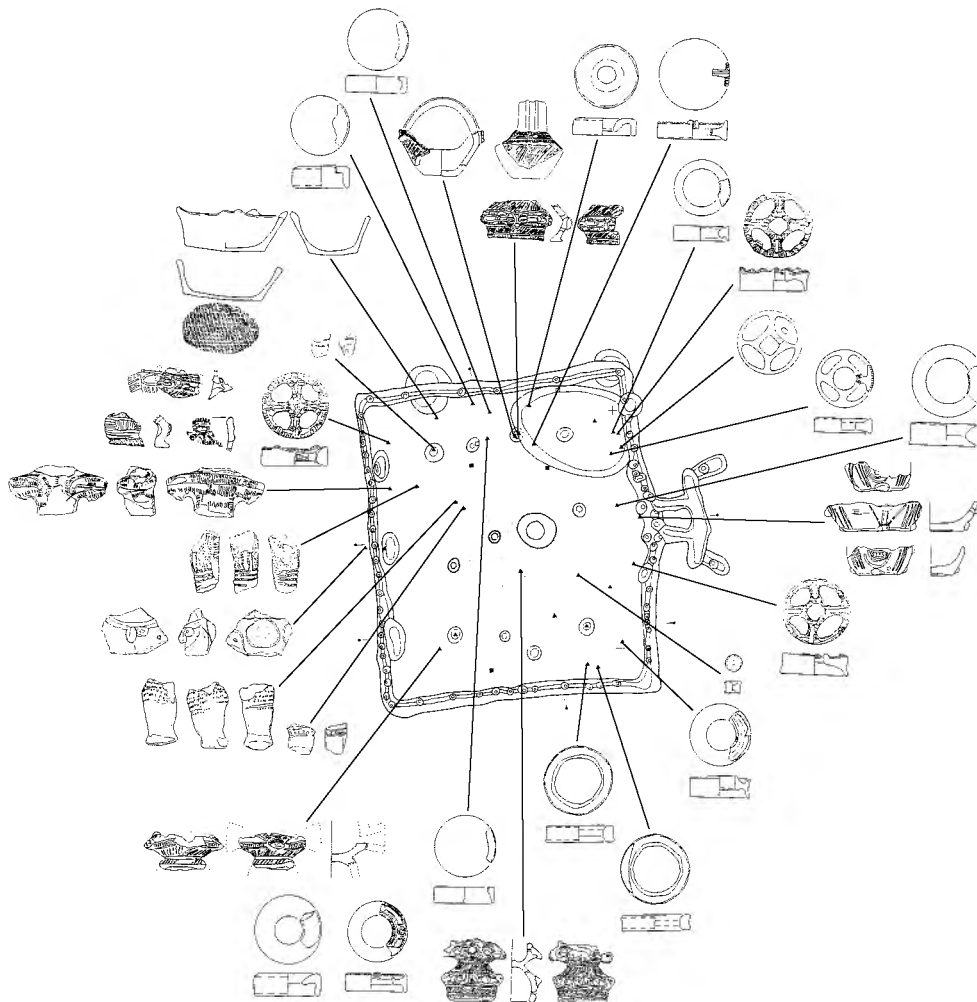


第 9 図 J-74出土遺物と遺物出土状況

塚E 4 晩期包含地点下で、直径11mの円形に配された柱穴が11ヶ所の焼土と共に検出されている。

J-102 (A-622) : 調査区西側に位置し、円形を呈する安行3a式期の住居。床面はローム層で、2基の炉と、壁際に5ヶ所の焼土があり、拡張が考えられる。石剣2点と玉1点・石鏃1点・石錘1点が出土し、石剣1点(報告 285-22)は被熱により全面赤化している。

J-125 (第12図・A-626・635) : 調査区の南側に位置し、床面が黒色土中であり、現道により攪乱を受け、遺構プラン検出には困難を極めた。調査時では曾谷式期～安行1式期のJ-125と、安行2式期のA-634、晩期前半のA-635の3軒の重複と捉えたが、報告時にはJ-125 1軒とのみ認定している。A-634は黒色土中の壁柱穴に沿って焼土が検出され、東寄りに炉があり、北から鯨の椎骨が、南側から亀形土製品と石冠が出土している。亀形土製品は、海獣に近い。石

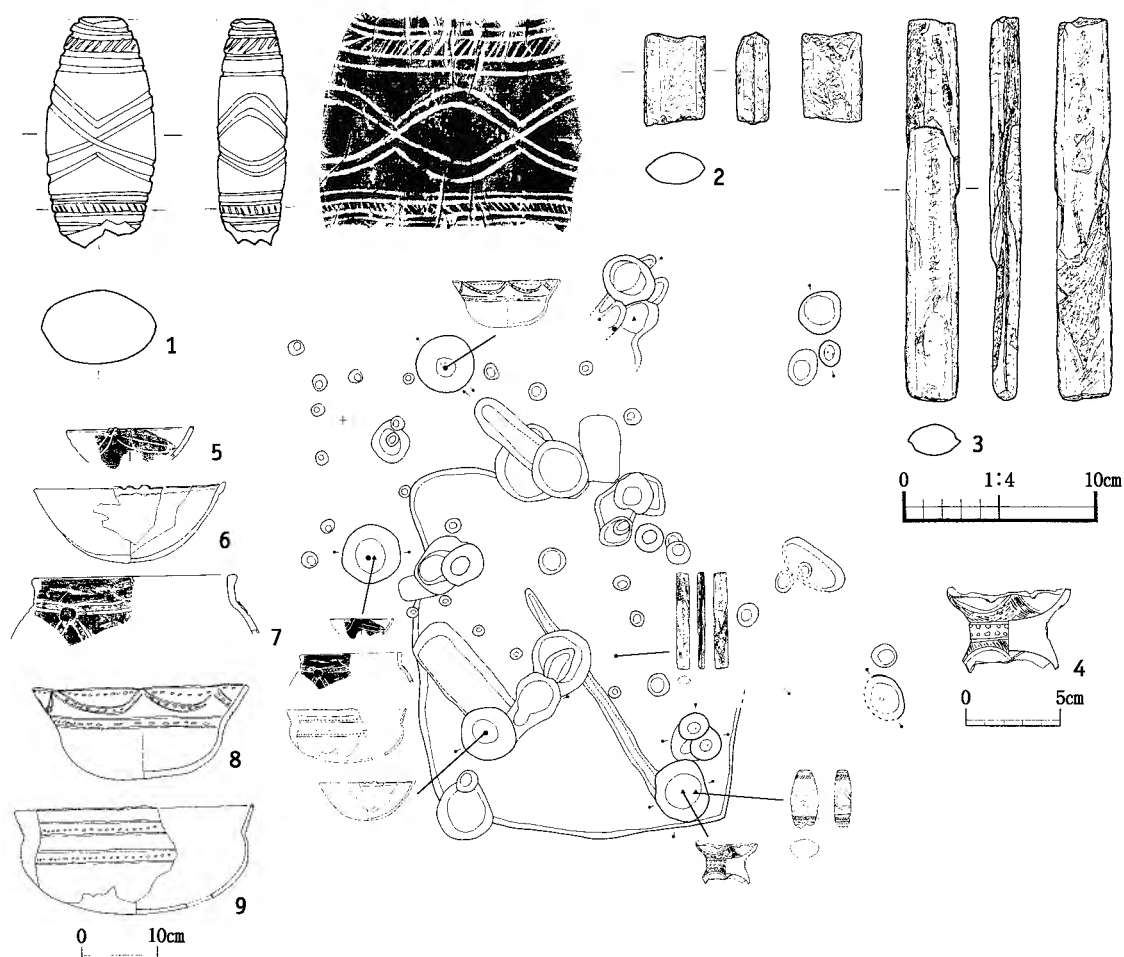


第10図 J-76遺物出土状況

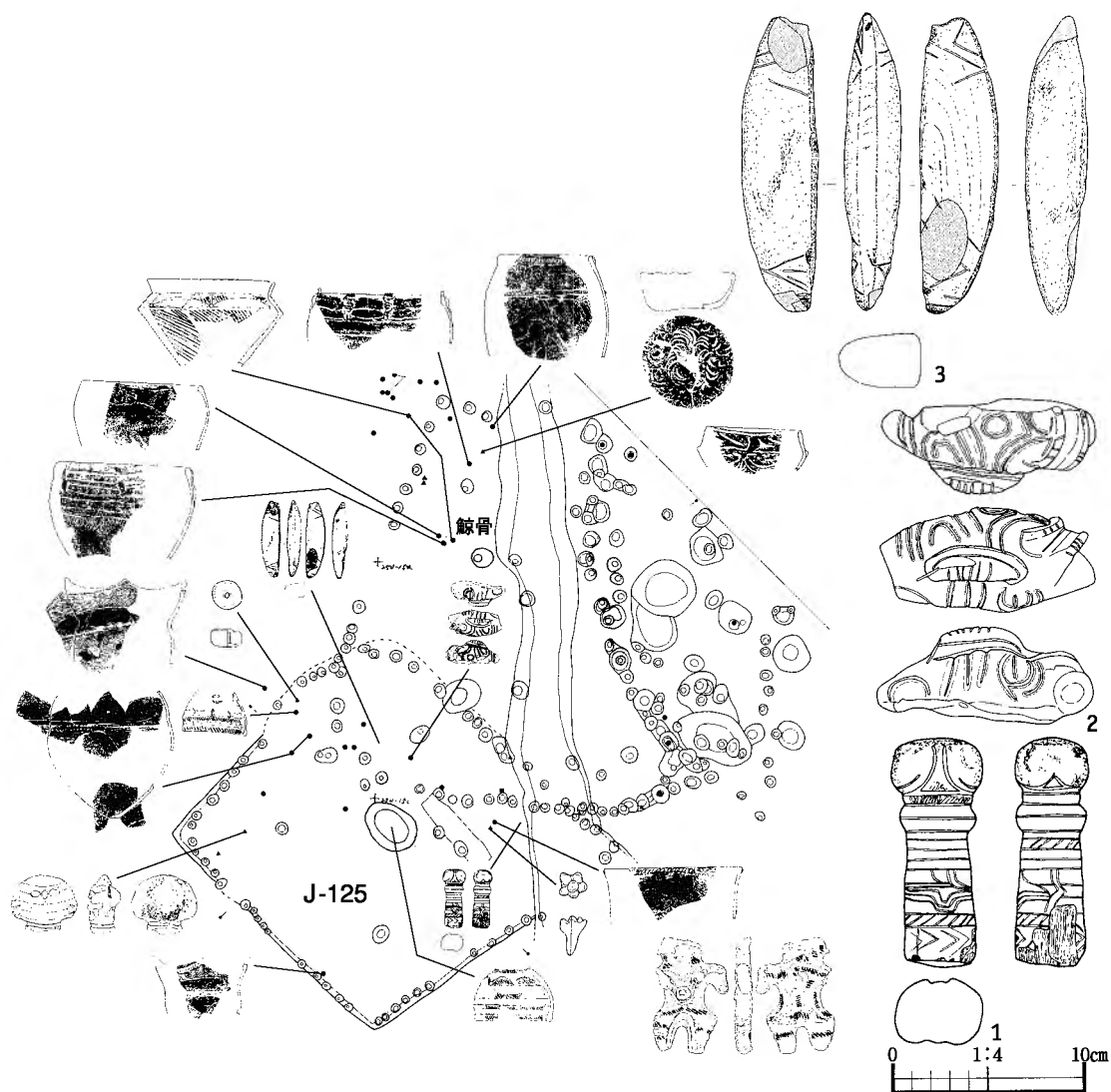
冠は両端に鋸歯状の細い沈線があり、二酸化鉄で赤化している。D-52からも石冠が出土している。両端に隆線状のものがあり、熱で破碎している（第14図）。貝の花貝塚25号住居、西広貝塚E 4 出土の石棒の文様と共通する。精巧な有頭石棒がJ-125の東側から出土している。同期の土器にみられる矢羽根状沈線を有し、石冠同様赤化している。

D-369（第13図・A-626・635）：J-93内の貝層を伴う土壌で、加曽利B式土器の大型破片を充填した中から、2点の破片が接合している。

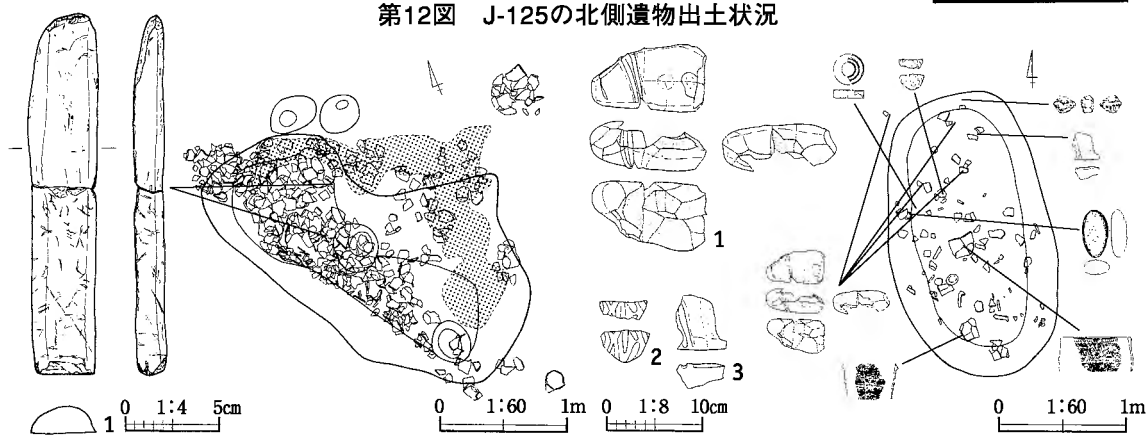
14O-3a グリッド（第1図）：長さ66.8cmの石棒が頭部を上にして突き刺した状態で出土。掘り込みはない。同地点は縄文時代の集落とは隔絶した西側の台地で、最も標高の高い地点である。周辺には加曽利B式期の住居1軒があるのみである。亀裂状態からも直接ローム層中に打ち込んだものである。石棒に同様の剥離が多いのはこのような使い方によるものと、春成秀



第11図 J-100出土遺物と遺物出土状況

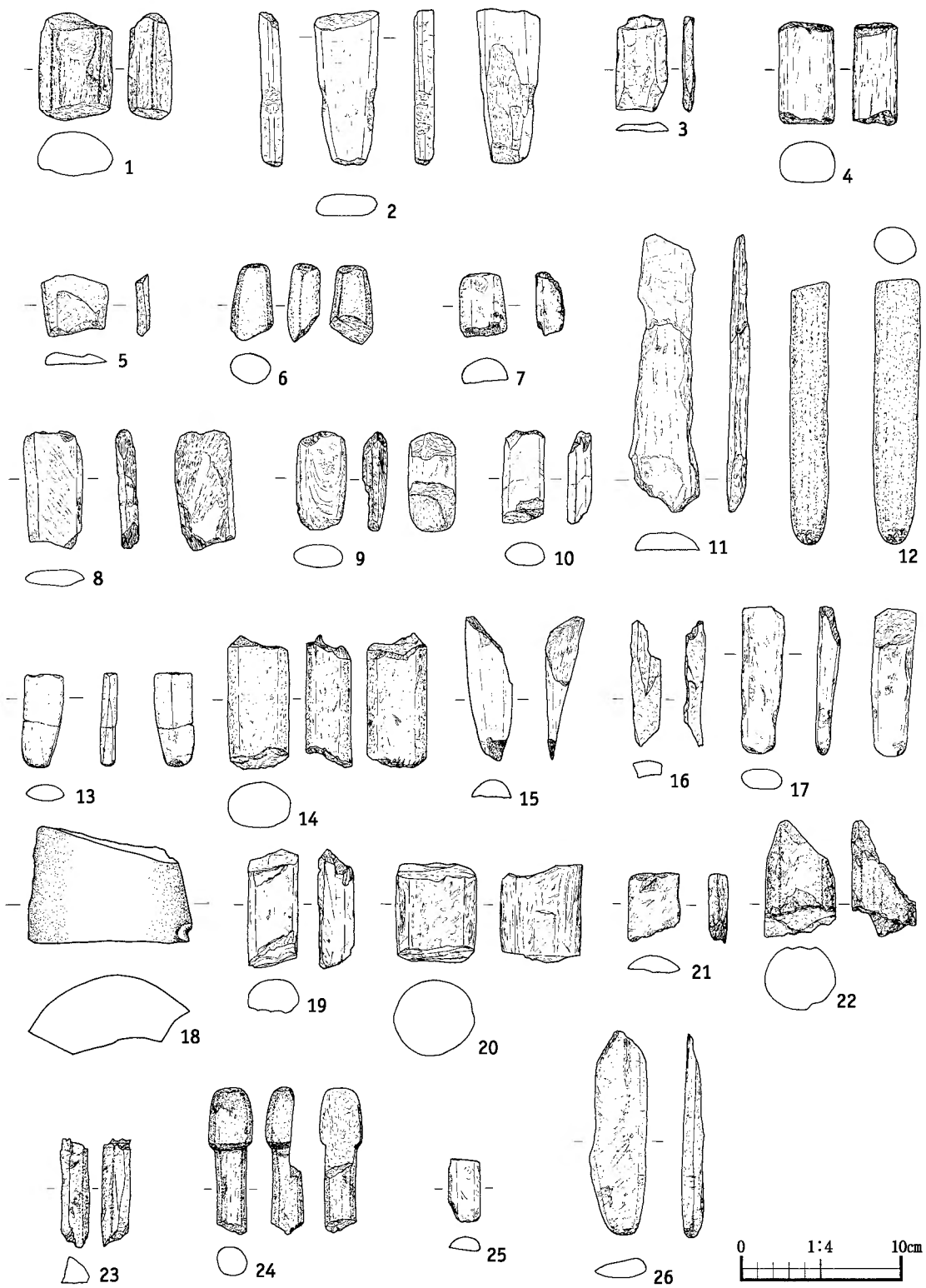


第12図 J-125の北側遺物出土状況

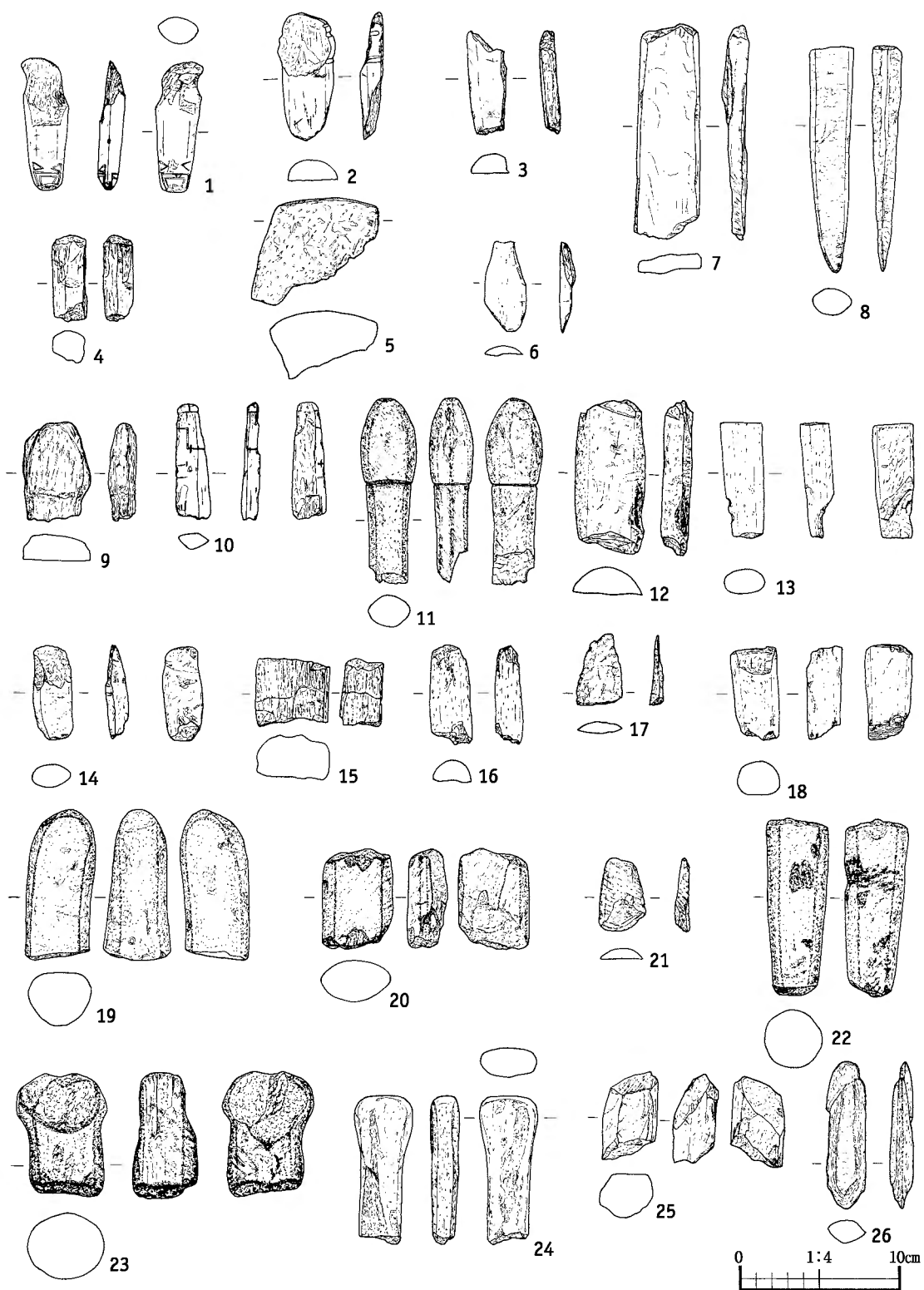


第13図 D-369出土遺物と遺物出土状況

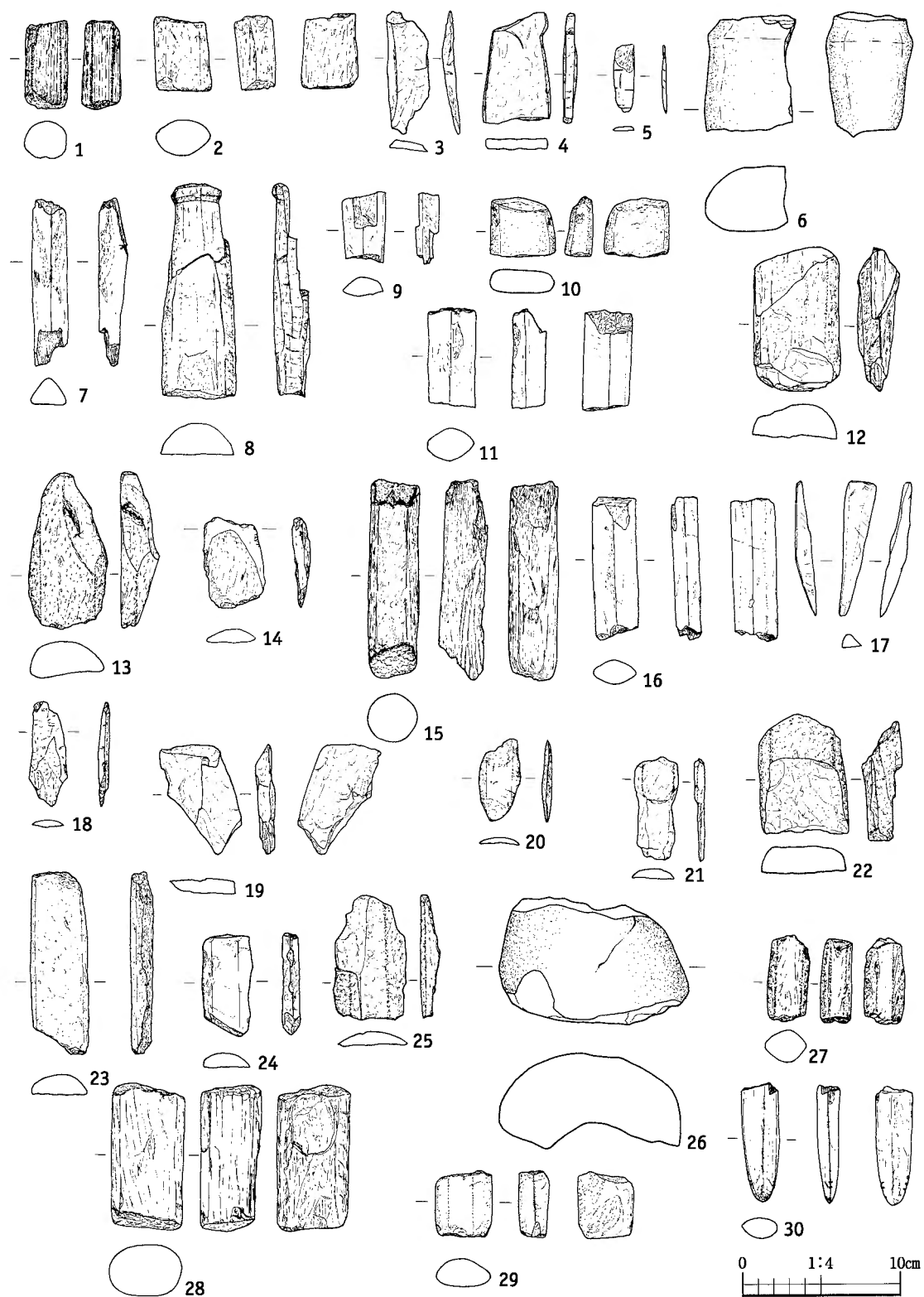
第14図 D-52出土遺物と遺物出土状況



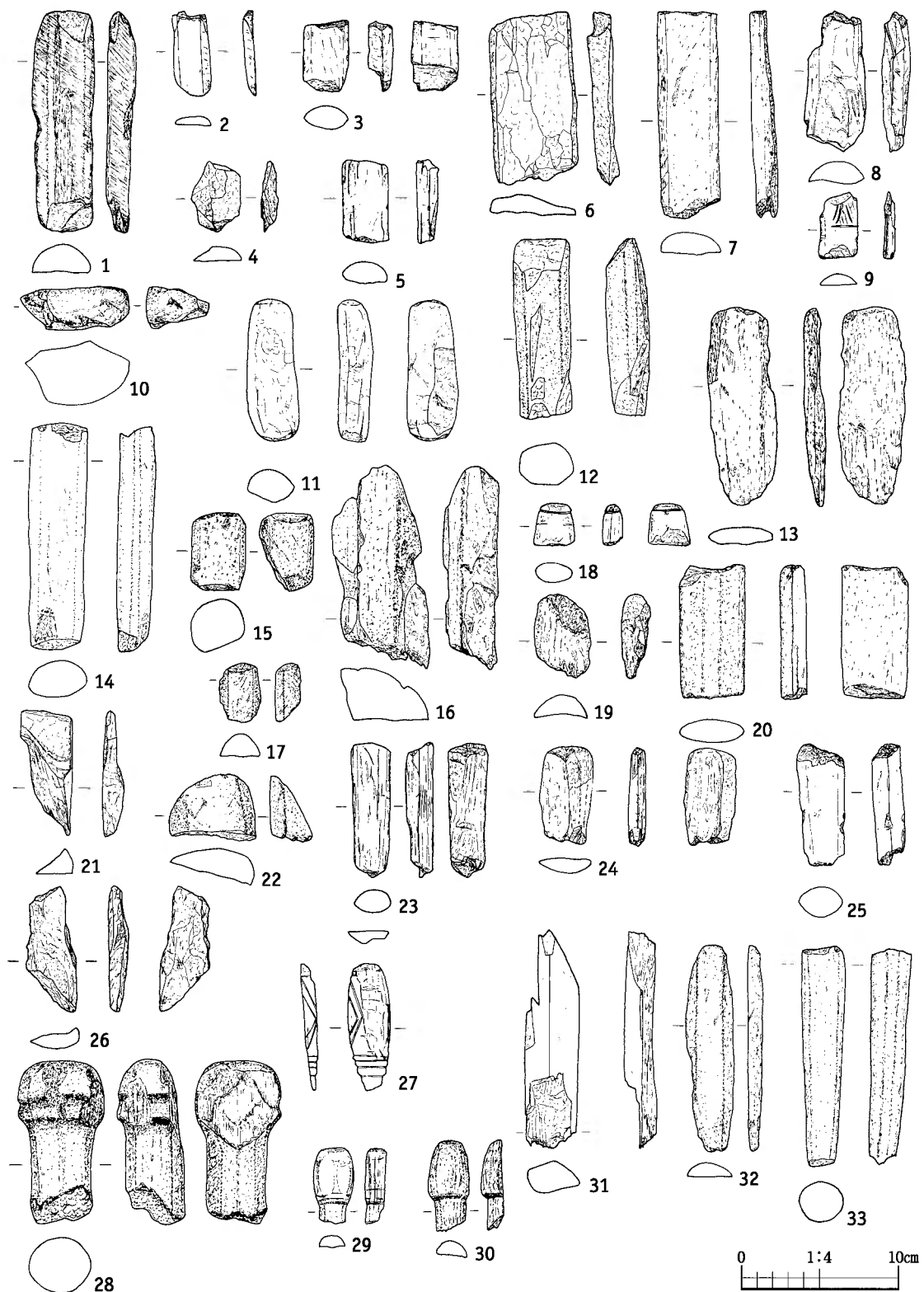
第15図 遺構内出土遺物



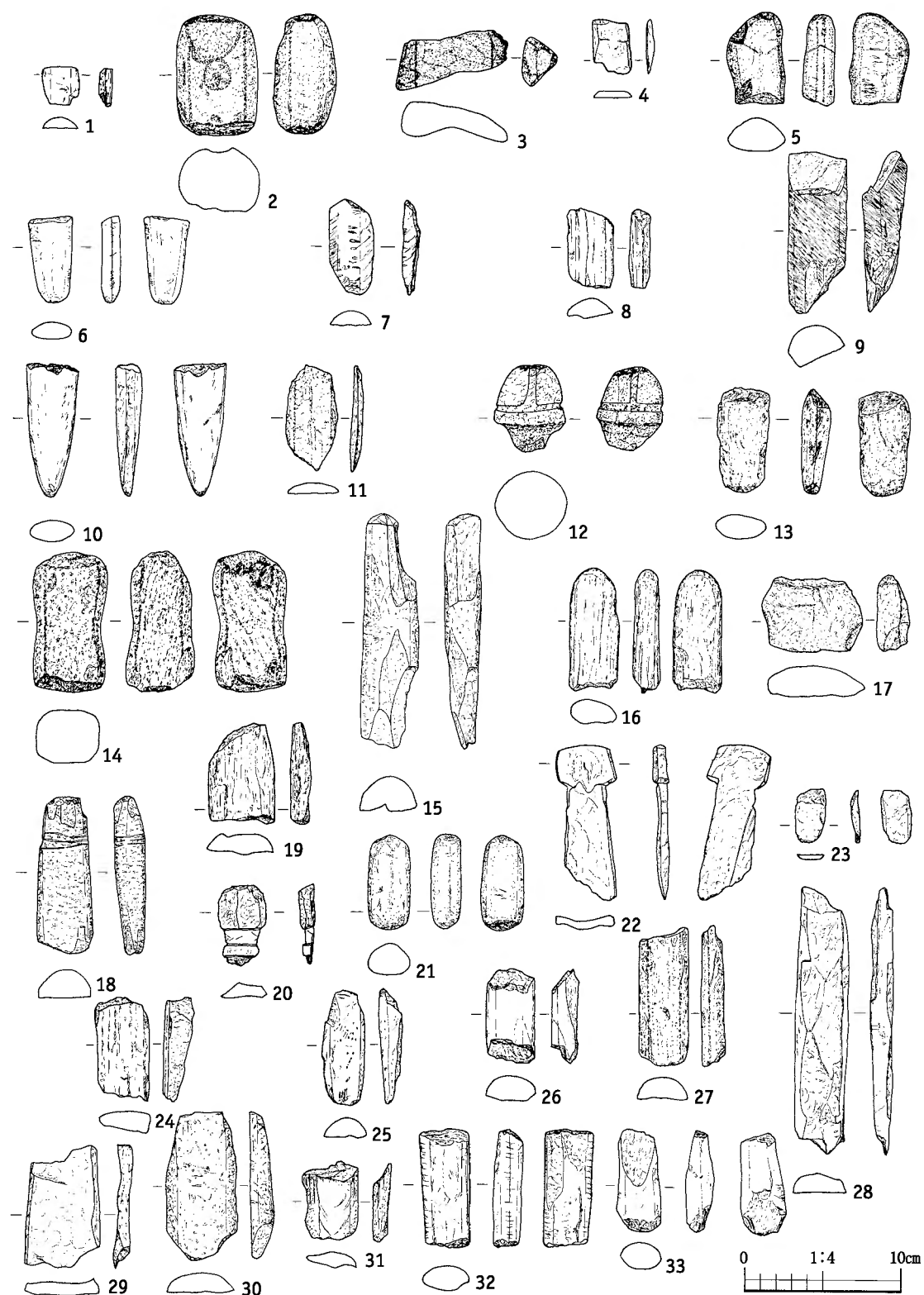
第16図 調査区出土遺物(1)



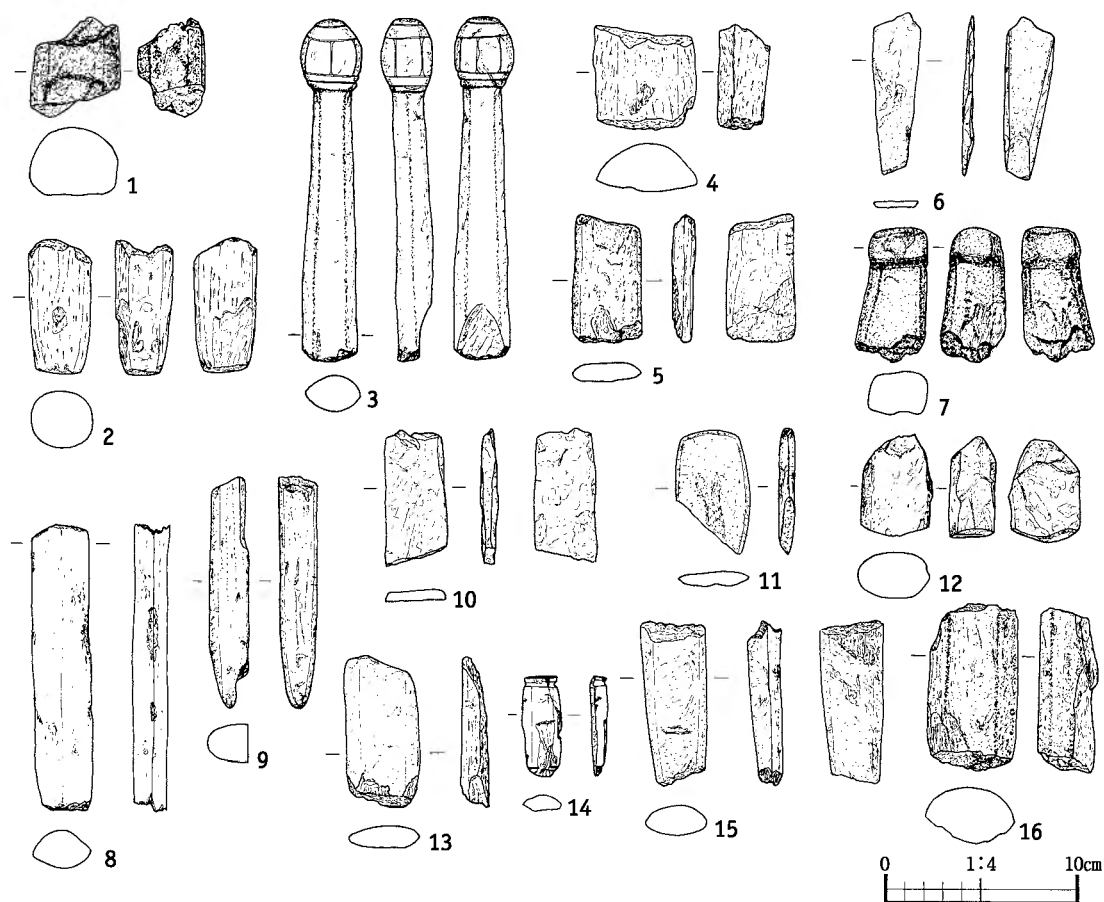
第17図 調査区出土遺物(2)



第18図 調査区出土遺物(3)



第19図 調査区出土遺物(4)



第20図 調査区出土遺物(5)

爾・佐原眞両氏から指摘を受けた。J-57出土の石棒（報告 285-18）も同形態を有する。

22V-15グリッド：5点（報告 285-11・286-20・287-17・21）が出土。獣骨層を伴う堀ノ内2式期のJ-62が存在し、周辺にも同期の遺物が多く、炉2からも注口土器が出土している。炉4出土の無文土器は安行3b式土器で、炉4を中心に遺構が考えられ、石棒も当該期の包含層に伴うと思われる。報告285-11は中央の敲打痕と沈線の特徴より熊登型石棒と考えられる。東北地方に分布し、関東地方では現在真福寺貝塚出土の1例のみである。

（報告で出土地不明とされたJ-17の報告284-7の石剣は22U-16a-1、報告313-391の木菟土偶は22V-13c-5と現地NOが判明し、D-32号土壙の遺物はD-3号土壙のものである。『千葉県史資料編』では住居数を175軒、報告では125軒となっているが、これについては改めて検討を加える。）

2. 内野第1遺跡における石棒・石剣の特質

安行2式期の住居にでは、J-16の有頭の大型石棒や独鈷状石器及び異形台付土器のような祭祀的遺物を伴う例、J-59の石棒・石剣を多く出土する例、J-74の大型の石棒を破碎している例、J-76の異形台付土器・耳飾を多く出土するが石棒・石剣を欠く例が認められる。石棒・石剣を出土する多くの住居床面に焼獣骨を含む焼土が伴うことは、住居の廃絶時にこれを用いた祭祀が行われたことを示唆するが、J-74には焼土はない。J-100の掘立遺構の柱穴からの出土例は、中沢貝塚・井野長割遺跡においても認められ、両者共に、柱穴内に焼土を伴っている。また、加曽利貝塚・中沢貝塚・吉見台貝塚・宮内井戸作遺跡・鹿島台遺跡等のように、加曽利B式期～晩期前半の拠点集落には大型住居が存在し、石棒・石剣及び異形台付土器が伴う例が多いが、当遺跡のJ-90においては出土遺物が殆どなく、炉がない等再考の必要がある。

県内の石棒では中野久木谷頭C遺跡SI-64出土の加曽利EⅡ式期のものが、最も古い。中期では大型石棒が一般的で三直貝塚の一軒の住居から9点出土している例や、囲護台遺跡339号土壙の細型の例もある。後期前半の段階で大型石棒から細型石棒に変化するようであり、一本松遺跡では堀之内式の屋外埋設土器の中から出土しており注目される。内野第1遺跡では加曽利B式期の段階で大型石棒と断面円形の石棒に加え、断面が扁平な石剣と断面が菱形の石剣が揃う。鹿島台遺跡では樹立した大型石棒に、細型石棒と異形台付土器が伴い、加曽利貝塚J-20では大型住居から2点の石棒と異形台付土器がセットで出土している。また、平成2年の立会調査で、犢橋貝塚の上流部の井戸遺跡（雷電貝塚）で加曽利B式期の貝ブロックが検出された。当水系は、内野第1遺跡から分水嶺を越え東京湾に至るルートに相当し、鯨骨やオキアサリの搬入路と思われる。晩期最終末の子和清水遺跡の存在等極めて重要である。

今回の資料では同時に出土した土器群が重要な問題となるが、それらについては機会を改めて公表を行いたい。本稿は、平成15年10月の「千葉県共同研修会」および平成16年2月の千葉市立加曽利貝塚博物館「郷土史講座」の資料を基にしている。資料作成には、阿部芳郎、鶴岡英一、西野雅人、犬塚俊郎、小川勝和、川根正徳、小林清隆、立出佳美の各氏の協力を頂いた。また本資料の実測は志村真咲、トレースは山形道子、調査最終段階の全体図の第1図は佐藤真利子の各氏の協力を得た。記して感謝申しあげる。

(財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター)

参考文献

- 財団法人千葉市文化財調査協会 2001 『千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書』
- 財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター 2004 『埋蔵文化財調査センター年報』16
- 財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター 2005 『埋蔵文化財調査センター年報』17
- 後藤信祐 1986 「縄文後晩期刀剣形石製品の研究(上)」『考古学研究』第33巻3号
- 後藤信祐 1987 「縄文後晩期刀剣形石製品の研究(下)」『考古学研究』第33巻4号

- 春成秀爾 1996 「性象徴の考古学」『国立歴史民俗博物館研究報告』第66集
- 角田真也 1997 「関東地方における細型石棒の文様とその位置づけ」『東国史論』12
- 上総国分寺台遺跡調査団 1997 「西広貝塚」
- 市原市教育委員会 1999 「祇園原遺跡」
- 千葉県 2000 『千葉県史・資料編 考古（旧石器時代・縄文時代）』
- 白井久美子・小林清隆 2002 「縄文時代後期大型住居と舟の線刻をもつ須恵器－鹿島台遺跡の調査概要と新資料の紹介－」『研究連絡誌』63（財千葉県文化財センター）
- （財）印旛郡市文化財センター 2003 「佐倉市宮内井戸作遺跡」
- 池田淳子 2003 「熊登型石剣について」『三面川流域の考古学』第2号

第1表 内野第1遺跡石棒・石剣計測表

遺物番号 フリット	形 状	長×幅×厚 (cm)	残存部	石 材	旧台帳No 石棒 石剣	旧遺物番号	図No	備 考	被 熱	遺物番号 フリット	形 状	長×幅×厚 (cm)	残存部	石 材	旧台帳No 石棒 石剣	旧遺物番号	図No	備 考	被 熱			
J-16	Ⅲ-B-1	7.0 3.5 0.5	10.8	頭部	頁岩		31	A-125-13	2-2	3-4と同一個体	○	D-52		9.0 4.4 1.4		64	C-474-7					
	Ⅲ	8.0 3.3 1.3	44.4	柄部	頁岩		54	A-125-18	2-3			V-A-2	Ⅱ	5.8 2.5 0.8	19.2	頭部	砂岩	65	C-474-63	15-13	砥石に転用	
	Ⅲ	12.5 3.1 0.6	23.1	柄部	頁岩		77	A-125-13	2-4		○	D-251	Ⅱ	8.0 3.5 2.5	140.3	頭部	石英安山岩	63	C-380	15-14		
J-17	I-A-1	13.0 7.5 5.0	700.0	頭部	緑泥片岩	15		A-125-74	2-1			Ⅱ	9.1 2.7 1.1	40.6	柄部破片	黒色珪質頁岩	79	C-380-12	15-15			
	V-A-1	32.8 3.7 2.4	445.8	完形	砂岩		8	21U-16a-1		報告285-25 先端に文様		D-369	Ⅲ	18.9 3.6 1.4	174.2	柄部	砂岩	126	A-633-194-205			
	V-D	23.8 3.0 2.4	262.4	1/2	緑泥片岩		10	21U-16c-78		報告284-7		D-372	—	8.1 2.2 1.0	16.6	柄部破片	玄武岩	134	C-865	15-16		
J-18	Ⅱ	6.7 4.6 6.6	138.1	頭部	紅簾雲母片岩	126		A-177-90	15-1		○	Ⅲ-A-1	Ⅱ	9.2 2.7 1.2	52.9	頭部	粘板岩	66	C-482	15-17	28エリア外7	
	Ⅳ-C	24.7 2.8 2.2	251.8	1/2	緑泥片岩		45	21U-16a-80		報告284-6		H-35	Ⅲ-C	12.9 3.5 1.4	82.3	頭部	輝緑岩	73	A-076-23	15-26		
	—	11.5 11.2 9.7	1581.0	頭部	石英斑岩	23		21U-12b-16		報告284-5		H-62	Ⅳ-A-1	9.0 2.5 1.9	67.9	頭部	緑泥片岩	2	有頭	A-104-4	15-24	
J-20	Ⅲ-C	8.2 2.0 0.7	19.6	頭部	粘板岩		49	A-383-1	5-2	創頭		H-115	V-B-1	16.0 3.0 1.8	143.8	完形	緑泥片岩	29	A-250-24		報告286-2	
	Ⅲ	11.8 3.0 1.4	68.9	完形	粒状安山岩		62	A-383-197	5-1	打製石斧に転用		H-186		16.7			A-337					
	Ⅱ-B-1	4.0 2.3 0.7	5.0	破片	頁岩	39		A-383	5-3		○		Ⅱ	4.0 2.2 0.2	3.7	破片	頁岩	76	A-337			
J-21	Ⅱ	3.5 2.8 0.5	9.0	破片	頁岩	54		A-383	5-4			H-262	Ⅱ	3.7 2.1 0.6	10.8	破片	黒色珪質頁岩	53	A-446	15-25		
	Ⅱ	9.5 3.6 1.4					63	A-384-63			○	H-292	Ⅱ	6.7	1.8	27.0	頭部	緑泥片岩	130	A-570	15-23	
	Ⅱ	5.9 3.7 0.6	19.1	柄部破片	頁岩		76	A-385	5-6		○	H-295	Ⅲ-A-2	12.4 5.7 1.8	219.2	頭部破片	緑泥片岩	103	A-576-1			
	Ⅱ	6.0 4.3 0.6	21.9	柄部破片	頁岩		141	A-385	5-5		○	Ⅱ	16.9 4.2 3.4	449.5	頭部	緑泥片岩	73	A529-44		報告288-12 砥石に転用		
	Ⅱ	29.5 4.0 4.1	453.4	柄部	緑色珪質頁岩	42		A-384 21V-7c-114	5-7	3点接合		M-15	I	7.5 10.5 4.2	478.0	頭部	石英安山岩	88	M-15	15-18		
J-35	Ⅱ	5.0 3.7 2.8	74.0	柄部	緑泥片岩	40		A-384				M-19	Ⅱ	4.0 2.5 0.5	10.5	破片	石英安山岩	82	M-19-54			
	Ⅲ-C	9.7 3.0 1.5	94.8	頭部	緑泥片岩		11	A-130-9	15-2	緑簾雲母片岩		M-33	Ⅱ	7.0 3.0 2.0	83.5	柄部	黒色珪質頁岩	20	M-33	15-19		
	Ⅱ	6.0 3.3 0.8	14.0	柄部破片	頁岩		71	A-130-p4	15-3		○	M-37	Ⅱ	6.0 5.0 4.5	21.2	柄部	頁岩	58	M-37	15-20	赤化	
J-37	Ⅱ	6.3 3.3 2.8	125.3	頭部		3		A-119-3	15-4		○	M-65	Ⅲ	4.0 3.2 1.3	24.9	柄部破片	緑泥片岩	42	M-65	15-21	石棒	
J-45	I	15.3 10.8 11.0	2660.0	頭部	石英安山岩	37		A-146-143	6-1			Ⅱ	7.1 4.6 4.3	136.0	柄部	緑泥片岩	26	M-65	15-22			
J-51	Ⅱ	9.0 4.0 0.9	38.6	破片	頁岩	59		A-131-p8				14O-3a	Ⅱ-B-1	66.8 5.4 5.4	2546.2	完形		34	14O-3a-1		報告284-1	
	Ⅲ	3.8 4.1 0.8	20.3	柄部破片	砂岩		89	A-169-p55	15-5			21R-8d	Ⅱ-B-1	13.0 5.0 2.2	368.2	頭部	緑泥片岩	10	21R-8d		報告287-3	
J-55	I-C	4.8 2.7 2.0	35.6	頭部	粗面安山岩	125		A-136-p1	15-6	砥石に転用		23S-5b				破片		24	23S-5b			
	I	17.3 11.3 10.3	2958.3	頭部	石英安山岩	89		A-541-1	7-1			21T-5c	Ⅱ-B-1	9.0 4.5 3.0	223.6	頭部	砂質頁岩	4	21T-5c-1		報告287-4	
J-57	Ⅱ-A-1	6.0 1.7 1.7	35.7	頭部	緑泥片岩	87		A-542-1		報告287-19		21T-14d	V-D	8.2 2.6 1.6	48.1	頭部	緑泥片岩	20	21T-14d-Ⅲ	16-1	文様有	
J-58	Ⅱ-B	35.5 3.6 4.8	801.6	完形	緑色珪質頁岩	77		A-538		報告285-18		22T-3c	Ⅲ-B-1	8.1 3.6 1.2	49.3	柄部破片	緑泥片岩	131	22T-3c	16-2		
J-59	Ⅲ	12.8 3.6 1.9	123.6	柄部	頁岩		92	A-523-77	8-3		○	22T-3d	Ⅱ	6.5 2.5 0.8	25.1	柄部破片	粘板岩	60	22T-3d	16-3		
	V-D	29.5 3.4 1.8	343.9	完形	緑泥片岩		93	A-523-75	8-1	報告285-9 先端沈澱2本		22T-4b		3.4 3.3 1.5	32.8	頭部		115	22T-4b-Ⅰ			
	Ⅱ-A-1	12.1 3.1 1.9	141.8	頭部	紅簾石英片岩		95	A-523-71	8-2		○	22T-14c	Ⅱ	5.5 3.0 0.5	9.9	柄部破片	頁岩	35	22T-14c	16-6		
	Ⅱ	8.9 3.2 1.2	37.5	頭部	安山岩		99	A-523-18	8-8			22T-15d	Ⅱ	5.0 2.0 1.5	35.1	柄部	緑泥片岩	17	22T-15d-81	16-4		
	V-D	9.4 3.3 1.4	63.1	頭部	紅簾雲母片岩		101	A-523-117	8-4	先端沈澱2本		I	6.0 6.8 3.2	160.0	基部	石英安山岩	28	22T-15d-83	16-5			
	V-C	9.6 3.4 1.8	96.3	頭部	緑泥片岩		102	A-523-40	8-5			24T-1a	Ⅱ	13.4 4.1 1.3	88.2	柄部破片	頁岩	128	24T-1a	16-7	○	
	—	5.0 2.9 0.4	5.5	柄部破片	頁岩		115	A-523	8-7		○	24T-16a	V-C	14.3 2.9 1.8	86.4	先端部	玄武岩	137	24T-16a	16-8		
	Ⅱ	6.2 3.6 1.0	34.3	柄部破片	頁岩		138	A-523-128	8-6			24T-16c		7.6 2.9 2.5	88.9	柄部		94	24T-16c			
	I-A-1	10.8 4.0 3.7	266.4	頭部		86		A-523-122	8-10			25T-10d		7.3 3.1 2.4	77.5	柄部		97	25T-10d-12			
	Ⅱ	7.8 6.2 4.5	333.7	頭部		90		A-523-161	8-9			25T-13b	Ⅱ-A-1	18.0 4.0 3.7	447.8	頭部	緑泥片岩	113	25T-13b-Ⅰ		報告288-24	
	J-60	V	11.6 3.5 1.5	68.0	完形	砂岩		96	A-529-58	8-15	砥石		21U-2a	Ⅱ-A-1	6.0 4.3 1.5	61.0	頭部	紅簾片岩	1	有頭	21U-2a-Ⅱ	16-9
V		6.2 4.2 1.5	42.0	頭部	安山岩		97	A-529-60	8-14	砥石		21U-2d	V-D	7.0 2.0 1.0	20.9	頭部	頁岩	59	21U-2d-Ⅱ	16-10	○	
Ⅱ		18.6 2.9 0.9	55.5	柄部	緑泥片岩		98	A-529-71	8-17	3点接合	○	21U-3b	Ⅱ	4.3 4.8 2.6	90.2	柄部	紅簾雲母片岩	128	21U-3b-Ⅲ-8b-Ⅲ			
V-A-2		7.1 2.4 1.1	22.6	頭部	砂岩		104	A-543-p30	8-13	砥石	○	21U-4a	Ⅱ	9.8 4.5 1.4	84.9	柄部	頁岩	64	21U-4a	16-12	○	
Ⅱ		13.6 3.2 0.9	46.1	柄部破片	緑泥質頁岩		105	A-543-2	8-16	黒色化	○	21U-6c		8.1 3.8 2.5	172.9	柄部	緑泥片岩	68	21U-6c-Ⅱ			
Ⅱ		10.8 2.4 1.5	41.9	柄部破片	黒色珪質頁岩		111	A-529	8-11			21U-7a	Ⅱ-C	3.8 2.5 0.8	13.2	頭部	黒色珪質頁岩	78	有頭	21U-7a		I字紋
V		7.2 3.2 1.0	33.9	柄部破片	頁岩		120	A-529	8-12		○	21U-7b		6.2 3.7 2.5	102.1	柄部		84	21U-7b-Ⅱ			
Ⅱ-A-2		17.0 4.0 3.4	449.4	完形	緑泥片岩	73		A-529-44	8-18	報告285-12 砥石に転用		21U-8a	Ⅲ	7.2 2.6 2.0	46.2	柄部	頁岩	4	21U-8a-Ⅱ	16-13		
J-63	7.8 3.2 0.5	20.4	柄部破片	緑泥片岩		118	A-534			○	Ⅲ-A-1	Ⅲ	11.5 3.0 4.7	128.0	頭部	黒色珪質頁岩	9	有頭	21U-8a-22	16-11	頭部打痕	
J-74	Ⅱ	18.0 12.0 4.6	645.0	頭部	砂岩	30		A-055-530533	9-1			21U-8b	Ⅲ-A-2	6.0 2.5 1.5	26.5	頭部	粒状安山岩	61	21U-8b-118	16-14		
J-76	Ⅱ	3.9 2.8 1.6	28.7	柄部破片	石英片岩		83	A-482			○	Ⅱ	5.0 2.0 1.2	17.4	柄部	頁岩	67	21U-8b-Ⅲ	16-15			
J-84	Ⅲ	7.3 3.6 1.3	58.5	柄部	緑泥片岩		58	A-368-p54	15-8			21U-10c	Ⅱ-A-2	9.0 4.0 3.5	279.6	頭部	凝灰岩	7	21U-10c-3	16-19	砥石に転用	
J-97		3.7 2.5 1.4	24.8	破片		111		A-623				21U-10d	Ⅲ	6.0 3.0 2.1	59.7	柄部	紅簾石英片岩	25	21U-10d-13	16-18	○	
J-98	Ⅲ	11.7 4.3 0.9	112.2	柄部破片	緑泥片岩	121		A-612-67	15-11			Ⅱ	4.3 3.0 0.7	8.5	柄部破片	緑泥片岩	110	21U-10d-30	16-17			
		8.0 3.8 2.5	75.6	破片		92		A-612-3				21U-11a	Ⅱ	5.5 2.5 1.3	38.0	頭部	金雲母片岩	22	21U-11a-2	16-16	石棒	
		11.0 3.4 2.7	120.3	頭部		93		A-612-59				21U-11a	Ⅲ	6.3 2.5 2.5	118.1	柄部	輝緑岩	109	21U-11a	16-20		
J-100	V	4.7 3.2 1.6	46.9	柄部	緑泥片岩		122	A-606	11-2			Ⅲ-C	10.5 4.0 2.3	275.0	頭部	粗面安山岩	6	21U-11a-23	16-22	砥石に転用	○	
	V	20.0 2.8 1.7	152.5	頭部	緑泥片岩		123	A-606-1	11-3			21U-11b	Ⅱ	4.8 3.0 0.8	13.2	柄部破片	粘板岩	107	21U-11b-Ⅱ	16-21		
	Ⅱ-B-1	6.0 2.7 1.7	44.8	頭部	頁岩	110		C-789-2	11-1	報告287-23		Ⅱ	5.0 3.5 2.5	57.6	柄部	頁岩	16	21U-11b-87	16-25	○		
J-102																						

遺構番号 グッド	形状	長×幅×厚 (cm)	残存部	石 材	旧台帳No 石礫 石剣	旧遺物番号	図No	備 考	被 熱	遺構番号 グッド	形状	長×幅×厚 (cm)	残存部	石 材	旧台帳No 石礫 石剣	旧遺物番号	図No	備 考	被 熱					
21U-12a	II	5.5 2.5 2.6	63.9	胴部	緑泥片岩	61	21U-12a-IV	17-1		21V-3c	II	2.4 2.4 0.7	5.8	胴部破片	頁岩	112	21V-3c	19-1		○				
21U-12b	II -A-1	13.5 4.8 2.3	153.7	頭部	緑泥片岩		94	21U-12b-III	17-8	○	II	7.4 5.1 3.9	248.0	胴部	緑泥片岩	27	21V-3c-183	19-2	磨石・凹石に転用					
21U-12c	IV	10.5 2.0 2.0	53.1	胴部破片	粘板岩		67	21U-12c-II	17-7		21V-3d	—	3.4 2.5 0.4	3.8	胴部破片	頁岩	135	21V-3d-II	19-4	○				
21U-12d	II	4.6 2.8 1.1	19.5	胴部	頁岩		100	21U-12d-II	17-9		II	8.4 3.0 1.5	80.6	胴部	頁岩	91	21V-3d							
	V	6.2 3.0 2.2	66.7	胴部	頁岩		33	21U-12d-10	17-11	21と同一個体	○	21V-4a	II	10.2 2.2 1.7	64.3	破片	頁岩	81	21V-4a-6		○			
21U-13b	III	3.7 4.0 1.6	41.1	胴部	粗面安山岩	127	21U-13b-II	17-10	砥石	○	21V-4b	II -A	5.6 3.5 1.8	49.1	胴部	砂岩	55	21V-4b-74	19-5					
21U-14c	II	9.0 5.4 2.1	122.8	胴部	緑泥雲母片岩		46	21U-14c-156	17-12		○	21V-4c	III -C	5.5 2.8 1.1	26.9	頭部	砂岩	36	21V-4c-II	19-6	砥石に転用			
	II	9.9 4.8 2.1	95.8	胴部	粘板岩	129	21U-14c-282	17-13			II	6.0 2.7 1.0	22.2	胴部破片	粘板岩		21V-4c-II	19-7						
21U-15a	V	3.8 5.5 0.9	22.2	胴部破片	頁岩		28	21U-15a-32	17-14	打製石斧に転用				6.5 2.6 1.1	28.3	破片	緑色珪質頁岩	79	21V-4c		一部煤付着			
	—	— — —	—	胴部破片			75	21U-15a-91		計測不能	○	21V-7c	II	10.8 3.8 2.3	119.7	胴部	粘板岩	41	21V-7c-109	19-9				
	II	7.3 4.0 0.8	29.3	胴部破片	頁岩		106	21U-15a-II	17-19		○	II	5.0 3.5 1.0	30.5	破片	緑泥片岩	43	21V-7c-III	19-8					
	II	12.5 2.8 2.5	177.4	胴部	紅麻石英片岩	57	21U-15a-89	17-15	砥石		I	3.1 6.6 2.2	58.3	胴部	粗面安山岩	101	21V-7c	19-3						
21U-15b	V	8.7 3.0 1.5	66.4	胴部	頁岩		21	21U-15b-1	17-16		○	21V-7d	II -A	47.0 4.0 4.0	1314.9	完形	緑泥片岩	12	21V-7d-2		報告284-10			
	V -A-1	8.6 1.5 1.2	15.1	胴部破片	砂岩		24	21U-15b-4	17-17		21V-8a	V -C	8.3 3.2 1.6	56.2	頭部	緑泥片岩	69	21V-8a-87	19-10	銅型				
	II	6.5 2.3 0.5	9.7	胴部破片	頁岩		27	21U-15b-II	17-21		○	V -C	5.4 3.4 1.2	40.7	頭部	輝石安山岩	70	21V-8a		砥石に転用				
	I	7.8 12.3 5.7	734.0	胴部	石英安山岩	38	21U-15b-II	17-18	J-21-38と同一個体		II	6.8 3.4 0.7	12.2	胴部破片	石英片岩	90	21V-8a	19-11		○				
	II	5.0 2.7 0.4	5.9	胴部破片	頁岩	33	21U-15b-121	17-20			II -B	5.5 4.5 4.1	118.0	頭部	緑泥雲母片岩	69	21V-8a	19-12	赤化	○				
21U-15c	II	7.0 5.5 1.5	104.9	胴部	緑泥雲母片岩		116	21U-15c-II	17-26		○	V	8.5 3.3 3.1	163.8	頭部	輝緑岩	70	21V-8a	19-13					
21U-15d	II	11.6 3.7 1.3	105.6	胴部	片麻岩		85	21U-15d-141	17-23	黒色化	○	II	4.5 6.1 2.0	83.4	胴部	粗面安山岩	105	21V-8b-1	19-17	打製石斧				
	II	7.8 5.0 0.9	43.2	胴部破片	石英片岩		87	21U-15d-162	17-25		○	II -A-1	8.0 5.0 3.5	305.7	頭部	緑泥片岩	50	21V-8b-97	19-14					
	II	6.5 3.2 0.9	32.0	胴部破片	緑泥片岩		113	21U-15d-II	17-24		21V-8d	II -A-2	7.5 3.3 1.5	62.5	頭部	紅麻片岩	44	21V-8d-III	19-16	先端部被熱黒色				
		15.0 3.5					30	21U-16a-90			21V-10c	II -B	6.5 3.0 2.0	88.6	頭部	黒色珪質頁岩	14	21V-10c-1		報告286-63				
21U-16a	II	5.4 2.6 2.1	23.0	胴部	粘板岩	31	21U-16a	17-27		21V-11a	V -A-1	13.2 5.0 2.3	275.4	頭部	緑泥片岩	51	21V-11a-2		報告288-14					
	II	14.0 3.9 1.8	146.7	胴部	粘板岩	32	21U-16a-65	18-1	41と同一岩質		II	6.0 4.4 1.4	52.4	胴部	紅麻片岩	103	21V-11a-III	19-19						
21U-16b	III -C	5.0 2.5 0.6	13.4	胴部			19	21U-16b-II	18-2		21V-12a	II -B-1	5.1 3.1 0.9	14.2	頭部	粘板岩	72	21V-12a-185	19-20					
	II	4.5 3.3 0.9	11.8	胴部破片	頁岩		130	21U-16b-II	18-4		○	21V-12b	III	32.3 3.7 2.2	44.8	胴部	緑泥片岩	52	21V-12b-190	19-21	砥石に転用			
21U-16c	V	4.5 2.9 1.6	26.0	胴部	頁岩		142	21U-16c	18-3		○	21V-12c	II -A-1	9.9 3.6 0.5	23.5	頭部	頁岩		74	21V-12c-111	19-22	31と同一個体	○	
	II	5.0 3.0 1.0	31.3	胴部	頁岩		68	21U-16c-II	18-5		○	II	3.4 1.9 0.4	3.2	胴部破片	石英片岩	86	21V-12c-145	19-23		○			
	II	10.5 8.5 1.0	99.2	胴部	緑泥雲母片岩	53	21U-16c-99	18-6	46・56と同一個体		○	II	7.3 3.1 1.0	32.7	胴部	黒色珪質頁岩	47	21V-12c-64	19-25					
	II	8.0 4.0 3.2	282.3	胴部	紅麻片岩	18	21U-16c-105	17-28			○	II	6.0 3.5 3.0	58.9	胴部	緑泥片岩	46	21V-12c-III	19-24					
21U-16d	III	13.2 3.9 1.4	117.4	胴部	砂岩		91	21U-16d-57	18-7		21V-12d	II	6.0 3.5 1.5	43.2	胴部	緑色珪質頁岩	60	21V-12d	19-26					
		5.0 4.3 2.6	98.2	破片		99	21U-16d-2			21V-15c	II	16.1 3.2 1.2	98.0	胴部破片	頁岩	136	21V-15c-II	19-28		○				
22U-1a	II	8.5 4.0 1.0	59.3	破片	緑泥片岩	8	22U-1a-II	18-8		21V-16a	II	5.1 3.3 1.0	22.3	胴部	頁岩	104	21V-16a-IV	19-31						
	II	16.2 3.3 1.6	80.6	胴部		29	22U-1a-II	18-10	報告286-2		II	9.5 4.9 1.2	81.8	胴部	頁岩	106	21V-16a-IV	19-30		○				
22U-1b	III	9.1 3.2 2.1	94.4	胴部	砂岩		2	22U-1b-5	18-11	砥石に転用	21V-16b	III	7.3 3.0 1.6	77.1	胴部破片	緑泥片岩	114	21V-16b-IV	19-32					
	III	11.3 3.5 2.6	148.6	胴部	頁岩		5	22U-1b-1	18-12	石礫	21V-16c	II	7.8 4.7 0.8	44.0	胴部	頁岩	107	21V-16c-IV	19-29		○			
22U-1d	II -B-2	4.1 2.5 0.8	11.6	頭部	粘板岩		124	22U-1d	18-9	三角文	21V-16d	II	5.3 4.6 2.5	99.5	胴部	紅麻雲母片岩	102	21V-16d-IV	20-1					
22U-2a	II	5.5 2.5 0.6	10.6	胴部			18	22U-2a	18-29		○	22V-1a	II -C	7.0 2.0 1.8	115.5	頭部	紅麻片岩	19	無頭	22V-1a-41	20-2	砥石		
22U-3a	III	12.0 3.9 1.1	87.6	胴部破片	緑泥片岩	12	22U-3a-II	18-13		22V-1d	III -B	18.0 3.0 1.9	171.1	頭部	黒色珪質頁岩	35	22V-1d-1	20-3	石剣・I字紋					
		11.5 5.8 2.8	82.8	胴部		98	22U-3a			22V-2a	V	6.3 2.7 1.5	39.8	胴部	頁岩	15	22V-2a-7	19-33	赤採	○				
22U-3b	III	14.5 3.8 2.3	250.4	胴部	蛇紋岩		6	22U-3b-1	18-14		22V-3c	II -A-1	9.7 3.1 2.4	118.1	頭部	粗面安山岩	5	22V-2a-8	20-4	報告287-15				
	I	4.5 3.5 3.0	44.6	胴部	安山岩	22	22U-3b-II	18-15			III	5.4 4.0 2.4		胴部		100	22V-3c	20-12						
22U-3d	I	13.0 5.5 3.3	308.7	胴部	緑泥片岩	121	22U-3 d-II	18-16		22V-3d		7.5 3.5 2.0	76.3	胴部		83	22V-3d-II							
22U-5b	II	8.0 3.2 1.0	29.9		粘板岩		80	22U-5b-40	18-26	打製石斧に転用	22V-5a	III	6.7 3.6 1.1	53.5	胴部	緑泥片岩	140	22V-5a-II	20-5					
22U-5c	V -B-1	3.8 2.5 1.5	19.5	頭部	粗面安山岩	119	22U-5c-II	18-17	砥石に転用	22V-5b	II	8.4 2.4 0.4	12.7	胴部破片	石英片岩	84	22V-5b	20-6						
22U-5d	V -D	13.9 2.5 2.3	38.9	頭部	粘板岩		43	22U-5d-59			II -A-1	6.5 3.3 2.3	126.3	頭部	緑泥片岩	45	有頭	22V-5b-III	20-7					
22U-6d	V -D	2.5 2.7 1.0	14.2	頭部	緑泥片岩		34	22U-6d-II	18-18	文線有	22V-5c	V -D	21.4 3.3 1.8	196.9	完形	粘板岩	47	22V-5c-4		報告286-16				
22U-7b	V	8.3 4.3 1.7	114.2	胴部	緑泥片岩		44	22U-7b-III	18-20		V	15.0 3.1 2.0	154.9	胴部	緑泥片岩	48	22V-5c	20-8						
22U-9a	II	5.0 3.5 1.2	38.9	頭部破片	緑泥片岩		41	22U-9a-II	18-19		22V-8a	III -C	12.3 2.1 1.7	60.7	胴部破片	流紋岩	125	22V-8a-III	20-9					
22U-9a	II	7.8 3.4 1.3	28.9	胴部破片	頁岩		129	22U-9a-II	18-21	黒色化	○	22V-9b	II	6.9 3.3 0.7	25.4	胴部破片	頁岩	108	22V-9b-IV	20-10		○		
22U-9b	V	4.0 3.5 2.0	41.6	胴部	砂岩		37	22U-9b-II	17-29	砥石に転用				6.0 3.3 1.8	64.8	破片	緑泥片岩	85	22V-9b-67					
22U-9c	V	6.0 3.5 1.0	34.5	胴部破片	緑泥片岩		39	22U-9c-II	18-24	砥石に転用	○	22V-9c	II	9.7 3.4 1.5	98.9	胴部	砂質頁岩	48	22V-9c-62	19-18				
	III	8.0 2.5 1.5	67.4	胴部	粘板岩	21	22U-9c-II	18-23	41片 31と同一個体		22V-10b	II	11.2 4.7 2.1	201.7	胴部	緑泥片岩	66	22V-10b-1	20-13	片面煤黒色化				
	III	4.0 5.5 2.3	58.4	胴部	輝緑岩	117	22U-9c-II	18-22		22V-13d	II	7.9 3.8 1.2	62.0	胴部破片	緑泥片岩	82	22V-13d-II		打製石斧に転用					
22U-10a	V	7.8 2.9 1.9	71.3	胴部	緑泥片岩		32	22U-10a-III	18-25		22V-14b	II -A-2	6.3 3.9 0.8	23.8	頭部	砂岩	139	22V-14b-IV	20-11	砥石				
22U-10c	II -B-1	8.0 2.6 1.3	19.6	頭部	黒色珪質頁岩		16	22U-10c-II	18-27	文線有	○	22V-15a	V -B-1	22.5 4.2 2.3	310.5	完形	緑泥片岩	81	22V-15a-1		報告286-20			
22U-13a	IV -D	7.4 2.3 1.5	33.7	頭部	緑泥片岩		78	22U-13a-64	17-30	銅型	○	22V-15b	II	8.8 3.1 1.4	66.3	破片	緑泥片岩	123	22V-15b	19-27				
22U-13b	II -A	10.0 5.5 3.8	312.8	頭部	緑泥頁岩	56	有頭	22U-13b-3	18-28		○	II -A-2	27.3 3.3 2.6	364.3	完形	黒色珪質頁岩	65	A-519-57		報告285-11				
22U-13c	II	3.0 4.0 1.5	25.8	胴部	石英安山岩		57	22U-13c-II			II	14.7 3.8 3.4	322.6	胴部	砂質頁岩	72	A-519-206		報告288-17	砥石に転用				
22U-13d	IV	13.7 3.4 1.9	111.1	胴部	粘板岩		13	22U-13 d-33			○	22V-15c	II -A-1	6.6 2.8 2.2	45.6	頭部	黒色珪質頁岩	71	22V-15c-1		報告288-21			
22U-14d	II -B	4.8 2.6 0.8	18.7	頭部	頁岩	118	22U-14 d-II		赤化・I字紋		22V	II -B-1	5.2 2.2 0.8	12.7	頭部破片</									